

# 衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 20年度12月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 20年度1月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、1998年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

2008年4月、市民にわかりやすくかつ迅速な情報提供を目指して、リニューアルを行いました。

今回は、2008年12月のアクセス件数、アクセス順位及び2009年1月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については行政運営調整局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

## 1 利用状況

### (1) アクセス件数 (2008年12月)

2008年12月の総アクセス数は、148,230件でした。主な内訳は、感染症57.0%、食品衛生19.9%、保健情報8.0%、検査情報月報3.4%、生活環境衛生1.5%、薬事1.7%でした。

### (2) アクセス順位 (2008年12月)

12月のアクセス順位(表1)は、第1位が「マイコプラズマ肺炎について」、2位が「百日咳について」、3位が「添加物データシート:イマザリル」でした。

国立感染症情報センターによると、2008年末からマイコプラズマ肺炎の報告数の増加がみられ、2009年第4週(1月19～25日)でも、定点当たりの報告数が増加しています。

百日咳は、かつては乳幼児を中心に患者の発生がみられてい

ましたが、DPT3種混合ワクチンの導入と改良・普及により、患者発生数は大きく減少しました。

しかし最近では、これまで殆ど問題視されてこなかった成人層における患者発生割合が大きくなると共に、2008年は患者発生数の大幅な増加がみられました。今や10代の若年層から成人層を中心に流行している感染症であるといっても過言ではありません。

現状のままでは、若年成人層を中心とした患者発生数の増加が更に継続し、それに伴い、重症化が懸念される乳幼児の患者発生数の増加をも招いてしまうため、早急な対応が必要と考えられます。

現在の小児科定点のみからの発生動向調査だけでは、成人層を中心とした患者の発生状況や実態を正確に把握することは困難であり、今後は成人の発生動向の把握をも視野に入れた調査を再構築していくべきであると思われます。

3位に「イマザリル」が入りました。これは2008年9月に、防カビ剤の「イマザリル」がレモン果汁を使用した一部の商品から検出され、メーカーが自主回収を行った事による影響と考えられます。

表1 2008年12月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	マイコプラズマ肺炎について	12,097
2	百日咳について	4,026
3	添加物データシート:イマザリル	2,870
4	インフルエンザワクチンについて	2,808
5	ヘモフィルス-インフルエンザb型菌(Hib)感染症について	2,384
6	英字略語集(ABC順)	2,310
7	電子パンフレット(レジオネラ症を防止するために)	2,059
8	感染症発生状況	2,001
9	ちょっと専門的なデータシート	1,718
10	2008(平成20)年度のインフルエンザワクチンについて	1,656

(3) 電子メールによる問い合わせ (2009年1月)

2009年1月にホームページのお問合わせフォームを通していただいた電子メールによる問い合わせの合計は、3件でした(表2)。

表2 2009年1月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
ホームページリンク許可願いについて	1	衛生研究所
ヒブワクチンとBSEについて	1	衛生研究所
肺炎ワクチンについて	1	衛生研究所

2 追加・更新記事 (2009年1月)

2009年1月に追加・更新した主な記事は、7件でした(表3)。

表3 2008年12月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
1月13日	感染症に気をつけよう (1月号)	追加
1月20日	レジオネラ症について	更新
1月23日	英字略語集(ABC順)	更新
1月29日	横浜市における麻しん患者届出状況 (2008年)	更新
1月29日	横浜市インフルエンザ等流行情報 5号	追加
1月30日	高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の発生状況	更新
1月30日	インフルエンザウイルスの抗ウイルス剤に対する耐性について	更新

【 感染症・疫学情報課 】